

■米国：中西部地域への風力拡大、電気料金引下げ効果あり、再エネ関連団体が試算

風力発電開発企業や送電会社などから構成されるアメリカン・フォー・クリーンエネルギー・グリッドは2012年5月22日、中西部地域（MISOエリア）への風力発電の拡大により、電気料金が低下するとの分析結果をまとめた。分析によれば、MISO地域に2,000万kWの風力発電を増設した場合、卸電力価格は年間39億から79億ドル低下し、送電線増設コスト負担を考慮しても、30億から69億ドル程度のメリットがあるとした。さらに4,000万kW増設の場合は、33億から94億ドルとメリット額が拡大する。これにより、需要家が支払う電気料金は年間65から200ドル低減し、送電線の増設費用が電気料金に与える影響は軽微とした。MISO域内電源の半分以上を占める石炭火力は、環境対策などによりコストが上昇している一方、風力発電は風車の大型化などにより経済性が向上しており、燃料が不要な風力は卸電力価格を大きく引き下げると分析している。